

神経内科セミナー

日時：平成26年9月17日（水曜日）午後6時～

場所：医学部 図書館3階 視聴覚室

タイトル：

『ギラン・バレー症候群：発症機序と治療』

演者：シンガポール国立大学 医学部 内科
教授（生理学兼任）

結城 伸泰 先生



【内容】

ギラン・バレー症候群（GBS）は、風邪をひいたり、下痢をしたりした1、2週後に、四肢の筋力低下が始まり、1、2週にわたって進行し、腱反射が消失する。演者は、平成元年に下痢を前駆症状としたGBS患者を受け持ち、その先行感染因子が下痢症や食中毒の主要な起因菌の *Campylobacter jejuni* であることを突き止めた。GM1、*C. jejuni* LOS をウサギに感作し、臨床的にも、免疫学的にも、病理学的にも、ヒトの病気と一致する疾患モデルを樹立することに成功し、新しい治療法の開発に役立てることができるようになった。糖鎖相同性により自己免疫病が発症し得るという新しい概念が、他の原因不明の自己免疫病の解明にも役立つことを期待している。

連絡先：内科学講座内科学第三 教授 山口修平

(TEL) 0853-20-2198・(e-mail) sannai@med.shimane-u.ac.jp

【博士課程選択科目】

細胞機能学 I (41)、細胞間情報伝達学 I (49)、細胞間情報伝達学 II (50)、
分子病態学 II (61)、基礎免疫学 I (75)、臨床免疫学 I (77)
感染症学 I

【修士課程】

免疫学（生体防御システム学）